

身に危険を感じる危機的状況下での 消防団活動

公益財団法人 愛媛県消防協会

愛媛県では、急斜面にあるみかん園地に無数の土砂崩れの爪痕が残り、山裾の住宅も背後の崩壊で多くの被害が出ました。さらに、治水や灌漑目的のダム流域の河川氾濫などで、被害は10月5日まとめて全壊家屋が632棟、死者は27名となりました。



西予市野村町

宇和島市消防団・西予市消防団・大洲市消防団

愛媛県南部では、7月7日の午前3時ころ宇和島市消防団の吉田方面隊に待機と水防の命令が発せられ、土砂崩れや河川氾濫、浸水の報が相次ぐなか、団員による避難誘導中には地震のような轟音と揺れを伴う土砂崩れも発生しました。

また、西予市野村町の一級河川流域では、氾濫寸前の短時間に約910軒を80名の消防団員が戸別訪問し、避難を喚起す

る果敢な行動をとったほか、下流の肱川流域でも、広範囲に浸水した大洲市街地で訓練された大洲市消防団員がゴムボートで孤立者を救出しました。

その後も住民が疲弊していく中、被災者でもある消防団員には、被災地への生命線となる道路や河川の土砂撤去など様々な対応が求められ、厳しい環境での活動が続きました。現在も、応援に駆けつけた近隣消防団をはじめ、自衛隊や消防隊、また関係機関などの支援に感謝をしながら、引き続き消防活動や復興活動

に取り組んでいます。



西予市消防団長
ひろはな 吉孝



西予市



宇和島市消防団長
やました ただみつ
山下 忠文



宇和島市

松山市消防団

松山市の離島、怒和島では消防団員が狭い道路に作業を阻まれながら困難な救助活動を行いました。また市街地でも広範囲な警戒巡視と広報や、住宅への土砂流入を防ぐ“積み土のう作業”を懸命に行いました。女性消防団員もこれまで訓練してきた避難所運営に参加し、避難者からも「あなたたちがいてくれて安心したよ」との声を頂きました。

特に高潮被害や南海トラフ巨大地震による津波が心配される海岸部の地域では、自主防災組織が地元拠点を置き、避難所運営やボランティアへの対応をはじめ、ドローンを使った被害状況把握などを行い、地元消防団と連携した対応を行いました。



松山市消防団長
おおいし こうじ
大西 浩司



松山市（怒和島）

今治市消防団

今治市では、しまなみ海道の橋で繋がる島嶼部の伯方町（有津）と吉海町（泊）で、土砂崩れにより2の方が亡くなり、風水害で死者が出たのは昭和51年以来となりました。

今治市の消防団は、早朝より警戒活動や避難誘導に当たり、発災後は直ちに常備消防・警察・自衛隊などと連携し、不眠不休で懸命の捜索・救助活動を行いました。

重機が使えない中、スコップによる人海戦術を展開した結果、一兩日中に被災者を発見することが出来たのはせめてもの救いとなりました。

また、今治方面隊女性部の団員も、初めて災害対策本部への出動要請を受け、家族を残しての出動に不安を感じながらも、深夜から本部詰めで現場消防団員からの情報収集や整理に懸命に取り組みました。



今治市消防団長
やまもと あきのり
山本 明德



今治市伯方町（伯方島）